



大学の授業に赤ちゃんがやってきた

～昭和薬科大学・臨床心理学研究室&町田子育て相談センターとのコラボ事業～

昭和薬科大学の授業に赤ちゃんがやってきました。少子化が進み、親になるまで赤ちゃんに触れ合ったことがない若者が増えています。結婚、出産、育児など現代社会は家族のあり方もひとの人生のあり方も多様であり、必ずしも子どもを持つとは限りませんが、「もしかしたらいつか親になるかも」という観点を持つしてみるのも意味があると考えています。大学生は「ことな世代」。子どもと大人の間の世代であり、両者をつなぐ存在でもあります。

先日、「人と文化5：人の行動と心理」の半年の授業の集大成として、教室に赤ちゃんとお親御さん、そして町田市の子育て支援者のみなさまに来ていただきました。この企画は、町田市子ども生活部子育て推進課・町田地域子育て相談センター、有志の薬剤師の先生方のご協力を受けて実現しました（プログラムの一部は一般用医薬品セルフメディケーション 振興財団の助成を受けて実施しました。また地域連携推進事業計画のプロジェクトとして行なっています）。



赤ちゃんに会いたい人？と聞かれて一斉に挙手する学生

12月にイベントとして「おくすり相談カフェ」を学内で開催しました。学生（4年生）と赤ちゃんのふれあい、薬剤師へのさまざまな「おくすり相談」が体験でき、参加者の満足度は高く、授業への参加も希望してくださいました。



2019年1月10日（木曜日）授業では、生後2ヶ月から2歳まで、12組の親子（子ども13人）が来てくれました。授業の合間に子育て中のお薬や健康の悩みに答える3名の薬剤師が参加してお薬相談カフェ@すずらんを開催しました。町田市子育て相談センターより職員4名参加して、町田市の子育て支援の現状を説明くださいました。授業の合間には、ふたたびお薬相談カフェ@すずらんも開催。保護者同士の会話も弾み、繋がりづくりもできる機会となっていました。



お薬相談カフェ@すずらんの様子



子育て相談センタースタッフからの子育て支援の仕組みの説明を受けました

Bクラスでは参加した保護者の方ひとりひとりから、赤ちゃんのこと、子育ての悩み、お父さんの育児などについて語ってもらいました。Aクラスではグループごとに代表がまず自己紹介を行いました。その後はどちらのクラスもふれあいタイムとして親子と学生が交流しました。



物怖じせず教室内を歩く子どもたちに学生もおもわずにっこり



ふれあいタイムの様子：はじめは不安そうにだんだんリラックスして抱っこする学生たち。自宅から手作りの赤ちゃん用おもちゃを持って来てくれた学生もいました